

福島

（地球市民）になり役割を担おう!!

共に進めるために、グローバル・シチズン

被災地・ふくしまの復興と再生を



福島県郡山市



NPO法人 うつくしまNPOネットワーク

「ふくしま」をめちやくちにした東日本大震災と 東京電力福島第一原子力発電所の事故（以下、3.11） に抗う、インターメディアリー（中間支援組織）

3.11の被害は甚大でした。そして、14年たった今もまだ「ing」です。が、一方で、東北6県はもとより全国から支援・応援をいただき、「助け合い」「学び合い」しました。

インターメディアリー（中間支援組織）の活動は、まさに、ESDで目指すこと（6つの視点：①多様性、②相互性、③有限性、④公平性、⑤連携性、⑥責任制）に重なります。

被災地・ふくしまの復興と再生のためには、市民・NPO、企業、行政などが力を合わせる必要があります。多様で多彩な人の輪が大切です。

■組織・団体に取り組む課題（テーマ）[SDGs]



写真について
上：SDGs出前講座（年間24回開催）（ふくしまSDGsネットワーク（FSN）と連携）
下左：総合防災イベント「そなえる・ふくしま2024」～いのちを守るマイ避難～（開催日：11月2日）へ出展（こおりやま災害助け合いネットワークからの協力）
下中：フードバンク/フードドライブ事業（福島県フードバンク連絡協議会（FFPC）と連携）
下右：水素と燃料電池の仕組みが学べるFCラジコンカー教室（みんなの市民活動交流フェスタ）

〒963-8835 福島県郡山市小原田2-19-19
電話 024-953-6092
FAX 024-953-6093
E-mail uketsuke@utsukushima-npo.jp
URL <http://www.utsukushima-npo.jp/>



活動紹介

グローバル・シチズン （Global Citizen: 地球市民）目指し、 学び合いを 深めていこう!!



こおりやまESD推進アライアンス（仮称）設立準備
（こおりやま広域圏地球温暖化防止活動推進センターの事業）

多文化共生社会に関する専門相談会（毎月開催）
（郡山市市民活動サポートセンターの協力）

プロジェクト概要

グローバル・シチズンは、グローバル人材とは違います。グローバル人材は、ビジネスや企業活動の文脈で使われます。国際社会の中で、語学力や国際的な経験を生かして営業活動をバリバリこなすビジネススキルに長けた人材です。もちろん大切です。しかし、被災地・ふくしまの復興と再生を担い、SDGs/ESDを実践していくためには不十分です。地球市民は、地球(the Earth)が惑星(planet)であることを自覚し、「我ら共有の未来(Our Common Future)」という考え方を大切にします。地球にはさまざまな問題(戦争・紛争、パンデミック、経済格差・貧困、人種差別、環境破壊、倫理的ジレンマなど)が山積みです。この問題を自分事とし、解決すべき課題と捉え、そのような価値観を持ち行動する人を指します。世代、性別、国籍、人種は無関係です。

ESD実践のポイント

「助け合い」「学び合う」ためには、相談し意見を言い合える仲間が必要です。様々な講座と実践、ネットワークづくりを大切にしています。
(1)多文化共生社会を目指し専門相談会を開催しています。(年12回)
(2)福島県フードバンク連絡協議会(FFPC)の活動を通して、食の大切さを学び合います。
(3)ふくしまSDGsネットワーク(FSN)と連携し小中高や市民団体、企業向けにSDGs出前講座を開催しています。(年24回)
(4)こおりやま災害助け合いネットワークの協力を得て、総合防災イベント「そなえる・ふくしま2024」に出展しました。
(5)被災地・ふくしまの未来を共に考えるために、みんなの市民活動交流フェスタ2024に出展し、水素で動くFCラジコンカー教室を開催しました。
(6)こおりやまESD推進アライアンス(仮称)の設立に向け、地域の人たちとの話し合いを続けています。

担当者からのメッセージ

地域の人たちと話し合っている時に、D問題が発生しました。おばあちゃんが、「やはりあんたたちも、ブルドーザーを持ってくるのかね」といいます。苦笑しつつ、「Development」という言葉を、「開発」ではなく「成長」という言葉にしてみました。現下の戦争、資源争奪、食糧不足、マネーゲーム、SNS騒ぎ、タレントの不祥事、某国での新しい大統領のふるまいなどを目にしますと、地域ESD活動推進拠点の役職員の、地球市民(Global Citizen)としての率先が試されていると感じます。



事務局長
鈴木 和隆さん